

■宮武外骨 ジャーナリスト。反骨の新聞・雑誌を次々と創刊しく大正デモクラシーを先駆、明治文化史の研究も。

みやたけがいこつ

大政奉還・・・1867＝

讃岐国阿野郡羽床村大字小野で、庄屋宮武吉太郎の四男に生まれる。母は佐野マサノ。幼名は亀四郎。

明治維新・・・1868＝1歳：

一番上の姉と三人の兄がいた。

学問のすすめ1872＝5歳：滝宮小学校に入学。

明治6年政変 1873＝6歳：

佐賀の乱・・・1874＝7歳：上羽床小学校を経て、

初の民間工場1875＝8歳：小野小学校記移り、

三つの反乱・1876＝9歳：卒業。

西南戦争・・・1877＝10歳：兄とともに自宅で家庭教師につき、「大学」の素読の後、

大久保暗殺・1878＝11歳：

高松の栄義塾に入り、四書五経を学ぶ。  
この間、有名な諷刺滑稽雑誌{团团珍聞}や{駿尾団子}を愛読して、大きな影響を受け、

明治14年政変1881＝14歳：上京し、{進文学舎橘香塾}で漢学を学びながら、文芸雑誌{屋山旭影}や{人間須知百事問答}に盛んに投稿し、購読済み雑誌は整理保存するようになる。

岩倉具視没・1883＝16歳：  
登場した自転車を購入して高松に帰り、{嘉々社}を創設、自らの編著の本の刊行予告するもできなかったが、花井卓蔵を知り、{朝野新聞}などを耽読して、ジャーナリストになることを決意、

秩父事件・・・1884＝17歳：

旧高松藩士の娘西村房子と同棲、

内閣発足・・・1885＝18歳：

妹に結婚を反対され、房子を連れて上京、{東京学館}を経営する兄南海を頼る

帝国大学始・・・1886＝19歳：

\*外骨と改名し、{屍茶無苦新聞社}を創設、{屍茶無苦新聞}を創刊するが、発売禁止で最初の筆禍。

国民之友始・・・1887＝20歳：

\*仮名垣魯文、三遊亭円朝らを会員に{頓智協会}設立、{頓智協会雑誌}を創刊して大ヒットし、吉原通い、大日本帝国憲法の発布にあわせ、大日本頓智研法を骸骨が授与する戯画を掲載して治安妨害に問われ、即発売禁止、上告して争ったが重禁錮3年、罰金100円に処せられた。獄中でも秘密裏に囚人から投稿を求め印刷発行を企て、伊藤痴遊、瀬木博尚らと合い知り、以後、親交。

帝国憲法発布1889＝22歳：

この間、妻は里帰り、

大本教・・・1892＝25歳：

出獄、

郡司千島探検1893＝26歳：

合い知った緒方八節の父の貧窮を見かね、その実兄たる細川家と紛争し、{萬朝報}上で黒岩涙香と舌戦。

日清戦争始・・・1894＝27歳：

八節が、唯一の実子となる男子天民を出生し、子連れて里帰りするが、

日清戦争終・・・1895＝28歳：

天民は夭折。広告取次店{博報堂}を開業した瀬木博尚が{頓智}と{滑稽}を発行してくれるが、

白馬会・・・1896＝29歳：

食いぶちのため、骨董屋を営んで{骨董雑誌}を発刊、

八幡製鉄始・・・1897＝30歳：

母が死去。

子規句歌革新1898＝31歳：

八節を入籍(再婚)。

Bushidou・・・1899＝32歳：

その続編{骨董協会雑誌}の失敗で負債を抱え、台湾に逃亡、養鶏事業を興すも失敗、

ピアノ国産化・・・1900＝33歳：

帰国し大阪に潜伏し、様々な仕事につきながら、再起を窺う。

田中正造直訴1901＝34歳：

大阪で印刷業福田友吉とはかり、{滑稽新聞}を創刊して好評、

教科書疑獄・・・1902＝35歳：

福田友吉からゆずりうけ、自ら発行所を構える。

日比谷公園・・・1903＝36歳：

阪井弁の「明治崎人伝」に紹介される。

日露戦争始・・・1904＝37歳：

父が死去。

日露戦争終・・・1905＝38歳：

満鉄発足・・・1906＝39歳：

友人の娘三千代を養子にする。同志と社会主義研究会を開始。東京の卸は{東京堂}が請負い、

韓国反日暴動1907＝40歳：

大阪政界革新会結成で委員。総発行部数も7,8万部にまでなっていたが、

アソビ創刊・・・1908＝41歳：

度重なる言論圧迫に憤慨し、「自殺号」と銘打った最終号を発行して廃刊。{大阪滑稽新聞}を創刊、

伊藤博文暗殺1909＝42歳：

この年までに{滑稽新聞}{大阪滑稽新聞}の筆禍で罰金刑16回、関係者入獄5回、特別要視察人乙号に指定。

韓国併合・・・1910＝43歳：

{大阪滑稽新聞}は甥に譲渡し、転換すべく、浮世絵研究雑誌{此花}を創刊、政治から離れるも、

大逆事件判決1911＝44歳：

{筆禍史}を著し、封建的差別を批判。雅俗文庫で「猥褻風俗史」、

明治天皇没・・・1912＝45歳：

春画好色本展の出品目録「玉のさかつき」を出すなど、風俗紊乱の罪は続く。

大正政変・・・1913＝46歳：

小林一三の援助で、日刊新聞{不二}を創刊、折口信夫、菊池寛の寄稿も得るが、

第一次大戦始1914＝47歳：

結局、筆禍で不二新聞社も放棄。

21ヶ条要求・・・1915＝48歳：

妻八節が死去。選挙違反告発候補者として衆議院選挙に立候補するが落選、東京に本拠を移し、

民本主義・・・1916＝49歳：

猥褻もの主に十二種類の雑誌を一袋にいた{袋雑誌}後、奇抜雑誌{スコブル}を創刊。

ロシア革命・・・1917＝50歳：

再び、選挙違反告発候補者として衆議院選挙に立候補するが落選、

本格政党内閣1918＝51歳：

富山の米騒動に、日比谷公園での集会を呼びかける新聞広告出すも、警察に監禁され、大暴動に発展。

べルリン条約・・・1919＝52歳：

第一回{黎明会}講演会で、左右田喜一郎から福田徳三を紹介され、福田から吉野作造を紹介され、その支援の論陣を張り、厚田正二と普選要求の{民本党}を組織したり、{赤}を創刊、7万部売れるなど、大正デモクラシーの一翼を担うが、特別要視察人甲号に指定されたこともあって、

原敬首相暗殺1921＝54歳：

伝統的因襲を断つとして「廃姓広告」を掲載、以後、著述に専念。

水平社結成・・・1922＝55歳：

養女三千代が吉野作造の弟子と結婚。自らは、吉原の遊女小清水マチを家に入れる。吉野作造や法制史家中田薫に高く評価された「私刑類纂」をはじめ、「奇態流行史」、

関東大震災・・・1923＝56歳：

{賭博史}「川柳語集」などを著し、

護憲三派圧勝1924＝57歳：

三千代が死去。中田薫に懇請されて、東京帝国大学法学部嘱託となり、江戸時代の制度、風俗、言語の調査に従事する一方、吉野作造、尾佐竹猛らと{明治文化研究会}を組織、

治安維持法・・・1925＝58歳：

震災で明治期の新聞雑誌が灰燼に帰したことから、その保存館設立を博報堂瀬木博尚に相談、

円本時代始・・・1926＝59歳：

小清水マチを入籍(再々婚)。その寄付を受けて、法学部に明治新聞雑誌保存館を設置することが決定。

金融恐慌・・・1927＝60歳：

明治新聞雑誌文庫事務主任(嘱託)となり、以後、各地に出張して、資料蒐集に専念するとともに、

共産党事件・・・1928＝61歳：

マチが、住み込み書生との不倫発覚で、服毒自殺。水野和子と再々々婚。流行の円本全集攻撃本を販売、

海軍軍縮条約1930＝63歳：

明治新聞雑誌文庫所蔵目録「東天紅」所篇を刊行。{公私月報}を創刊し、適宜、短文を発表。

満州事変・・・1931＝64歳：

国際連盟脱退1933＝66歳：

吉野作造が死去。

帝人疑獄事件1934＝67歳：

友人の大審院判事尾佐竹猛から、{頓智協会雑誌}の筆禍が冤罪とする井上毅の意見を知り、長年の鬱屈が晴れ、祝賀会を開催し、宮武外骨の名に復する。

芥川直木賞始1935＝68歳：

兄南海が死去。所蔵目録「東天紅」続篇を刊行。

日中戦争始・・・1937＝70歳：

健保+総動員 1938＝71歳：

自ら発行した著作、出版物を明治新聞雑誌文庫に保存。

第二次大戦始1939＝72歳：

友人瀬木博尚が死去。

大政翼賛会・・・1940＝73歳：

妻和子が死去。山城屋稲田政吉の長女能子と再々々々婚。{公私月報}を廃刊。

日米開戦・・・1941＝74歳：

\*所蔵目録「東天紅」第3篇を刊行、以後、戦争でなにもできなくなるなか、

創価学会検挙1943＝76歳：

喜寿を機会に、名前「よみ」を「とぼね」に改め、改名通知を配布。

年金+総武装 1944＝77歳：

戦局悪化で南多摩郡に疎開、魚釣りに精を出す。

敗戦・・・1945＝78歳：

東京高円寺の自宅に戻るが、空襲で全焼、明治新聞雑誌文庫に仮寓し、自炊生活。

極東裁判判決・・・1948＝81歳：

三大事件・・・1949＝82歳：

瀬木博尚の子博報堂社長瀬木博信が家を新築してくれる。退職し、

独立回復・・・1951＝84歳：

足腰が不自由になり、臥床するなか、アメリカの日本美術研究家やオランダの日本文化研究家が来訪、

55年体制始・・・1955＝88歳：

老衰のため\_没した。

別冊太陽「宮武外骨」、「日本史を変えた人物200人」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、